

ユーラシアンホットライン

NPO ユーラシアンクラブの合宿開催

6 月 29 - 30 日、神奈川県相模原市緑区の癒しの湯で

ユーラシアンクラブ新体制の結束力の強化と愛川町での 7 年間の活動についての理解の向上、愛川町協力者との交流促進を目的に合宿を行いました。合宿開催地が、都心からはかなり交通不便な場所であったことから本部役員の一部、地元愛川町からの参加も予定より大幅に少ない現状でしたが、愛川町で 10 月 12 日開催予定の第三回中津川モンゴルフェスティバルに向けて、モンゴル・プフ・クラブの主要メンバーや協力者 9 人、キルギス人留学生、ら 22 人が参加し、



本部役員には愛川町での活動について、パワーポイントを使用したスライドで説明したほか、まちづくりネットワーク愛川代表の諏訪部勲さんが今後のユーラシアンクラブと愛川町との連携に対して強い希望が表明されました。また一夜明けた午前中には、今後アジアでの活動、アジアを視野に入れた日本での活動で欠かせない、「アジア」理解について歴史地理的観点で「アジアの源流」について大野が説明したほか、2015 年に計画されている「300 人の村の古代絵画展」の計画、ハバロフスクでの先住民族フェスティバルについて井出晃憲から説明があり、バーボルドー副理事長から今年 10 月に予定されているモンゴル・プフ・クラブ 20 周年事業や第 3 回中津川モンゴルフェスティバル計画、8 月 20 日以降計画されている内モンゴルツアーについて説明がありました。

最後に、7 月 26 日、サハ共和国から来日する太鼓集団「テティム」の和太鼓研修と 8 月 3 日開催する第 4 回中津川弁財天愛川町音楽祭の計画への参加を呼びかけ、合宿は終了しました。

今回の合宿では、バーベキューや温泉での交流の時間がたっぷりとられ、緑豊かな自然を満喫して散会しました。

<バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 第 127 回研究会のご案内>

日 時：2013 年 8 月 29 日 (木) 15:00~17:00

テーマ：「エネルギー拠点としてのごみ処理施設の展望 (仮題)」

講演者：藤吉秀昭氏 (日本環境衛生センター常務理事)

会 場：地球環境パートナーシッププラザ (東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学 1F) 地下鉄表参道駅より徒歩 5 分・JR 他渋谷駅より徒歩 10 分 <http://www.geoc.jp/access>

参加費：BIN 会員 無料、一般 1,000 円

※日本で現在利用されているバイオマスのほとんどは、廃棄物です。その中でも、一般廃棄物処理施設での電力・熱利用は、大きな割合を占めています。

※第 127 回研究会では、この問題に詳しい日本環境衛生センター常務理事の藤吉秀昭氏に、エネルギー拠点としての清掃工場の展望に

ついて伺います。

※小規模な施設でのサーマル利用や DBO (公設民営方式) 化といった動きの中で、昨年からはじめた FIT (再生可能エネルギー電力買取制度) を受け、効率のよいごみ発電に注目が集まっています。

※PPS (特定規模電気事業者) 事業の可能性や、都市部でもエネルギーを自給できる清掃工場を防災避難拠点とする構想などについても、お話いただきます。

※参加者の皆様とともに、廃棄物バイオマスの今後の適切な利用拡大に向けて、活発な議論ができれば、大変幸いです。

※参加をご希望される方は、下記よりお申し込みください。

<http://www.npobin.net/apply/>

● 板坂 優一：1983 年生まれ。北海道出身。2009 年の冬からバックパックとギターを背負って中国からシリアまでアジア横断の旅へ。そこで見た『イスラムの世界』に魅せられ、現在マレーシアのペナンにてアジアの文化、特にイスラム圏について宗教、社会などの勉強をしている。



マレーシアでは年に数回、各地で野外音楽フェスティバルが催される位、音楽に対しての情熱が注がれているようだ。先日もペナンでワールドミュージックフェスティバルと言う、世界各国からアーティストを招いての大きな野外イベントがあった。ペナンの老若男女や、外国人も大勢訪れていた。チケット代も日本のフジロック・フェスティバルのように数万円レベルではなく、約 2000 円程度だ。しかも会場に敷物を敷いてゆったりとビールを飲みながら鑑賞出来るほどの十分なスペースがあり、かなりストレスフリーかつ、良い音楽も聞けるピースフルで素晴らしいイベントだった。他にも、アジア全域で大ブレイクした『ガンナムスタイル』のライブも最近ペナンで開かれ、満員御礼の大盛況であった。

私が見る所、ペナンの若者の間では洋楽ロックや R&B、クラブミュージック等が若者の間で人気なようだ。しかし面白いことに人種によって音楽の嗜好が有るように見える。例えば華人は中国語のなんとなくロマンチック的な曲、マレー人はマレー語のちょっとハードなロックミュージック、インド人はやっぱりインド直輸入の元気なインディアンソングと言った感じだ。

これらのような音楽をひっくるめてメインストリームの音楽シーンとしたら、その裏側であるアンダーグラウンドシーンも存在する。アンダーグラウンドミュージックにもいろいろ種類はあるが、主にパンク、ヘヴィメタル、ハードコアと言うような音楽の事を指し、一般的にはやかましい音楽として嫌煙される存在なのだが、この音楽シーンはメインストリームの水面下で活発に蠢く、どの国にも共通するカウンターカルチャーだ。そしてこのようなバンドが沢山存在して、彼ら独自の文化を形成している。これもまた面白いことに、このような音楽シーンに属している人達の嗜好（音楽の好みやファッション等）は国籍も人種や宗教の違いも関係なく殆

ど同じなのだ。要するに、マレーシアでこれらの様な音楽のライブに行くと、マレーシアと日本の違いが分からないくらい、人も音楽も日本と同じ感じなのだ。

マレーシアのイスラムではこのようなパンクやメタルなどの音楽は禁止はしていない。しかし全国ファトワ評議会では、ブラックメタルミュージックは飲酒や悪魔信仰等をムスリムに促す危険性が有るとして禁止するよう表明している。ブラックメタルとはヘヴィメタルの一種で歌詞や音階に黒魔術的な意味合いや、オカルト、悪魔信仰を含めたり、彷彿させるような激しい音楽の種類である。ちなみにファトワとはイスラムにおける勧告、布告、見解の事であり、イスラム以外の人には殆ど関係ない。マレーシアのある音楽関係者はこれに対して、ブラックメタルバンドはあっても、それを本気で信仰をするバンドはいないし、それを一つのテイストとして取り入れているだけだ。そもそも、それ禁止するならばブラックメタルの定義を明確に提示しなければならないだろう、との事だ。

このように音楽は文化を形成する一つの要素になりうると同時に社会的混乱も招く恐れもあるようだ。しかしひとつ言えるのは音楽一つで国や宗教、人種を超えて同じ文化を共有できたり、それで互いを知ることでもある。何よりも言葉の壁も越えて音楽と一緒に楽しめることは素晴らしい事だと思う。どんな音楽でも平和の一つの架け橋になる気がするが、使い方を間違えれば大きな問題にもなりうるかもしれない。

【インド通信】 1 3 号

ケーララの神話と子どもの本

佐藤友美

[1986 年生。幼少期をオーストラリアとシンガポールで、10 代は埼玉県で過ごす。オーストラリア国立大学でサンスクリット語と日本語言語学を学ぶが、優等学位のために書いた論文は津田梅子に関するものだった。その後東京外国語大学の博士課程前期に入学するも、現在休学してインド・ケーララ州で日本語教師として企業勤務。現在の主な関心はケーララ芸能。]

インドの叙事詩といえば、マハーバーラタとラーマヤナ。ヨーロッパのイリヤスやオデュッセイアとも比較されます。その存在感は、日本人にとっての桃太郎やかぐや姫と、「誰もが知っている話」という点では似ていますが、その膨大な量と、生活に対する影響力という点では、段違いです。ヒンド



ウーであれば、それは自分たちの信仰する神様の話であるし、そうでなくても、インド人にとってこの叙事詩の登場人物やエピソードを知っているということは、常識とも言えます。こうした神話の知識なしに、インドの伝統芸能を理解することは、不可能です。

元々、伝統的な社会では、親から子へと連綿と伝えられる民話であったのでしょ。また、折々に村落にやって来る吟遊詩人や芸能集団によって、その記憶は強化され、広められていったに違いありません。しかし現代においても人々が叙事詩の記憶を共有しているというのは、外から見ると不思議にも思えます。

現在の、人々の一般的な叙事詩の理解やイメージの元になっているのは1980年代に放映された、実写ドラマだと言えます。また地域によっては、神話を題材にした実写映画もたくさん作られていました。しかしそれだけでなく、インド全域で人々の神話理解に大きな貢献をしているのは、「アマル・チトラ・カタ (神々の絵物語)」という、カラーコミックスです。



1967年創刊のこの雑誌は、インド20言語版があり、マラーヤラム語版の隔週刊を見る限りでは、各言語それぞれ独自のものを制作しているようです。しかし、大判でもっとしっかりした装丁の、英語やヒンディー語のものも入手できます。私の周囲の文化人たち、特に女性たちは、こぞって「アマル・チトラ・カタは beautiful だ」と言います。

ケーララの状況を見ると、絵本という存在は、こちらではあまり一般的では無いようです。かなり低年齢向けの本であっても、字がびっしり入っています。自然たっぷりの環境では、絵本の必要性も低かったのかもしれませんが。しかしやはり近代化が進んでいく中、子どもたちに豊かな本の文化を…という人々も出てきているようで、写真の上部の数冊は、最近活発に、きれいな絵入りの子どもの本を出している出版部のもの。

「アマル・チトラ・カタ」は、長らく子どもたちの、一番のお気に入りであったのでしょ。その物語は、オーソドックスなものに偏りすぎているだとか、登場人物が類型的すぎるだとか、批判も受けているようですが、少なくとも子どもたちの神話への導入としてはピッタリであるように思えます。これからはどんどん子ども向けの魅力的な本も増えて来るでしょうから、アマル・チトラ・カタは生き残っていけるのか……？ という懸念も感じられますが、伝統にプライドを持っているインド人のこと、まずは優先的に、アマル・チトラ・カタから子どもに与えていくのでは、という気がします。

【インド通信】 14号 ケーララのイスラム教徒1

ケーララの穏やかな宗教事情については、今までも少しずつ触れてきましたが、今回は特にイスラム教徒について書きたいと思ひます。一般的にケーララでは宗教対立や差別はほとんど無いと言われてはいますし、実際にも私から見える範囲では、宗教や宗派の関係なく仲良くしているところしか見かけません。

ただ、過去から常にこうであったのかという、そうとも言い切れないようです。かつてはムスリムと言えば商人。市場は「こわい所である」という認識があったそうで、女傑ウンニヤールチャの逸話の一つに、周囲が止めるのも聞かず出かけた市



場で、襲い来る男たち（おそらくムスリム）を鞭のような剣、ウルミでのしてしまったというものもあります。

文豪バシールはイスラム教徒で、ムスリムを主人公とした小説を多く残しました。邦訳もされている「あたいのじっちゃん、象飼ってたの」では、保守派ムスリムの家族に生まれた娘が、「イスラム教徒が農業をするなんて！」と驚く場面があります。また、インド中でヒットしたタカリの「チェンミー（えび）」でも、漁村のヒンドゥー漁師の娘と、ムスリム商人の息子の悲恋が描かれています。（余談ですが、インドの悲恋ものは、シェイクスピアなどよりもよほど悲惨だなあいつも感じます）

宗教による差別というものとは別として、コミュニティの区別、というものが厳然としてあったのではないかと想像されます。今でも地域によっては、ムスリムが多い土地などがあります。習慣的なところでは、ヒンドゥーもムスリムもクリスチャンも大して変わらなかったのかもしれませんが（そういった区別がはっきりしてきたのは、外界の影響を受けた近現代のことのようです）、共同体ごとの区別は、今よりも自明のことであったでしょう。

カースト制度であっても、ケーララにはあまり無かったというような言い方をされることもあります。権威グルワユール寺院はほんの数十年前までアウトカーストが入ることを許していませんでした。今でもヒンドゥー以外は入れない寺院は多く、

【インド通信】 14号 ケーララのイスラム教徒 2

前回も書きましたが、ケーララのムスリム女性には美人が多いように思います。同意する友人たちの間では、戒律がハッキリしていることに関係があるのではないかと話しています。とはいえ、ムスリム女性といっても、装い一つとっても様々ではありません。一つハッキリとして共通点は、眉間にビンドウを付けていない、という点です。

アラビア諸国のように、全身を覆う黒いブルカを身に纏う女性も、時折見かけられますが、かなりの少数派です。また、振る舞い方から推察するに、中東帰りの人が多いように感じます（ケーララは中東への一大労働力供給地です）。

割とよく見かけるのは、肩まですっぽり覆える、顔面だけ出した短いポンチョのようなもの。黒だけでなく、色のバリエーションは色々あるようですが、インドネシアなどにあるようなオシャレなデザインは無いようです。お手洗いで、お化粧直しなどでこれを取るとだいぶ印象が変わって、ヒンドゥーの女の子と全然変わらない雰囲気になります。

また、普通のショールを、ほっかむりのようにして頭を覆っている場合もあります。一応額の上でピンなどで止めてあるものの、風や混雑の中で外れてしまっても、けっこう平気な顔をして直しています。ちなみに、そういった覆いを何一つしないムスリム女性もいます。

男性の方は、何となくムスリムっぽい、という印象はあるので、おそらく髭の剃り方や髪を剃る方に特徴があるのかと思

この厳しさはむしろケーララに特筆すべきことだと聞きます。そもそも、伝統的な社会では、巡礼以外の目的でコミュニティ外の人間が入ろうとする意識そのものが無かったのでしょう。

もともと、ケーララは相当に保守的な一面があるのは確かです。コミュニティという観点から見ると、「マラーヤリ＝ケーララ人」というアイデンティティが、昔の小さな共同体意識にとって変わっているという側面はあるように感じられます。外から来た人間に対する抵抗感（「違うもの」であるという感覚）や優越感、それが北インド人であれ南インドの他州の人間であれ私のような外国人であれ、一般的に強いのが現状です。

長くなってしまったので、ちょっとした歴史や、ムスリムの人たちの装いなどについては、次回まわしにさせていただきます。ムスリムの女の子は美人が多い、と、主観ですが思います。



ますが、特別に「これぞムスリム」という装いはありません。子どもたちや聖職者と思わしき方がびったりとした丸い帽子を被っていることがありますが、一般的なものではありません。

このように、ケーララにおけるイスラームも、ヒンドゥーやクリスチャンと同じように、見た目だけを見ても多様なものです。

歴史的には、ケーララのイスラームの歴史は比較的遅いようですが、アラブ世界との交易は常にありましたから、勢力として記されるほどではなかった改宗者は、ムハンマド直後からいたと考えられます。北ケーララでは、中世のサマデーリ朝がパトロンとなったことで、イスラーム人口が増えたとされています。

そのサマデーリ朝では、ムスリム海軍を増強させるために、各家庭で一人以上の男子をムスリムとして育てることを定めました。一方、18世紀にはマイソールからのイスラーム王朝の侵襲でヒンドゥー寺院が多数破壊され、ムスリムを当時優位に導いた一方で、宗教的対立心を煽った、とも言われます。

今では誰もが「昔は今ほど、宗教ごとのアイデンティティに分かれていなかった…」と口を揃えますが、歴史などを調べれば調べるほど、そうした認識と歴史との、落としどころに戸惑います。ケーララ人のアイデンティティ意識には、長く続いた共産党政権という歴史も関わって来そうです。

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。

【北アジア】

● **ロシア大統領、元職員の亡命容認示唆 反米活動停止を条件** 2013/7/2 01:11

【モスクワ、ワシントン共同】ロシア通信によると、プーチン・ロシア大統領は1日、米国が引き渡しを求めている米中央情報局（CIA）の元職員エドワード・スノーデン容疑者について、反米活動をしないという条件付きでロシアへの事実上の亡命を容認する可能性を明らかにした。モスクワでの記者会見で質問に答えた。

プーチン氏はこれまで元職員の亡命について、元職員がロシアに入国せず、空港の乗り継ぎ区域にいることを理由に中立の姿勢を維持してきた。この日の発言は、元職員の南米亡命が米国の強い圧力で難航していることから長期化を避けるために方針を修正したとみられる。

<http://www.topics.or.jp/worldNews/worldMain/2013/07/2013070101002402.html>

【西アジア】

● 「エジプトの春」からモルシ政権崩壊までの主な出来事



- 2011年**
- 1月25日 貧困や経済の低迷、汚職まん延に対する不満から反政府運動が全土に拡大
- 2月11日 ムバラク大統領(当時)が退陣、権限を軍に委譲
- 3月19日 国民投票により憲法改正案が承認され、大統領の任期を最長8年に規定
- 11月28日 議会選挙が始まる
- 2012年**
- 1月21日 議会選の結果、イスラム政党が議席の3分の2を獲得する大勝
- 6月24日 初の民主的な選挙によりイスラム政党のモルシ大統領を選出
- 8月24日 モルシ大統領が、ムバラク前政権の軍幹部を更迭
- 11月22日 議会選挙が行われるまで大統領が出す決定に異議申し立てを認めない法令を発令
- 12月22日 新憲法制定をめぐる国民投票が行われ賛成多数で承認
- 2013年**
- 5月7日 内閣改造が行われ、イスラム政党の閣僚が増える
- 6月21日 モルシ大統領退陣を求める抗議デモが全土に拡大
- 7月1日 5人の閣僚が辞任。軍が48時間以内に政治的混乱を解決するよう求める
- 7月3日 軍がモルシ大統領を解任、暫定統治に移行

(2013年7月4日作成)



<http://jp.reuters.com/news/globalcoverage/mideast>

【中央アジア】

● **アフガン、テロ頻発で邦人退避 JICA 駐在員** 2013/7/2 02:00 【カブール共同】国際協力機構（JICA）が、アフガニスタンでの武装勢力による襲撃やテロの頻発を踏まえ、現地に駐在する日本人の職員・技術協力関係者の大半について一時的な国外退避を始めたことが 1 日、分かった。

日本は 2001 年から今年 3 月までに総額約 48 億ドル（約 4800 億円）の援助を実施。JICA はインフラ開発や農業開発など日本の支援活動の「顔」として知られ、現地の評価も高い。アフガンの復興支援活動への悪影響は避けられない。

JICA によると、カブールの事務所には所員や技術協力関係者ら計 30 人前後が駐在していたが、2 日までに管理職ら一部を残し出国する。

<http://www.nnn.co.jp/knews/130702/20130702015.html>

● **英首相、アフガン電撃訪問 和平協議「アフガン人が主導を」** 2013. 6. 29 23:27

英国のキャメロン首相は 29 日、予告なしにアフガニスタンを訪問した。首都カブールの大統領府でカルザイ大統領と会談し、アフガン政府と反政府武装勢力タリバンとの和平協議は「アフガン人が主導するべきだ」との認識で一致した。共同記者会見で明らかにした。

タリバンがカタールに対外事務所を開設し米国と直接協議を始めようとしたことについて、カルザイ氏は米国が自身の頭越しでタリバンと対話を進めようとしたと反発していた。タリバンは米国ではなくアフガン政府と直接協議するべきだとのカルザイ氏の主張に、キャメロン氏は理解を示した。

また、キャメロン氏は駐留英軍を含む国際治安支援部隊（ISAF）の戦闘部隊が撤退する 2014 年末以降も「英国はアフガンを支援し続ける」と強調した。（共同）

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130629/asi13062923290003-n1.htm>

【東南アジア】

● **南シナ海問題を協議、ASEAN 外相会議始まる** 2013.6.30 11:38

東南アジア諸国連合（ASEAN）は 30 日、ブルネイの首都バンダルスリブガワンで外相会議を開き、一部加盟国と中国などが領有権を争う南シナ海問題をめぐる対応や、2015 年中の創設を目指す ASEAN 共同体に向けた取り組みについて協議した。

南シナ海問題をめぐっては、今年 4 月の ASEAN 首脳会議で、紛争回避を目的とした法的拘束力のある「行動規範」の早期策定を目指すことを確認。5 月にはバンコクで、中国と ASEAN の局次長級作業部会を開催するなど新たな動きが出ている。

ただ、行動規範の策定に当たっては、中国が有識者らによる「賢人会議」を設置するよう提案。これに対し、フィリピンやベトナムからは「時間稼ぎに使われる」と異論が出ている。（共同）

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130630/asi13063011400000-n1.htm>

【東アジア】

● **中国、指導部メンバー新疆入り 抑え込みへ躍起** 2013/6/30 18:14

【ウルムチ共同】中国共産党の最高指導部、政治局常務委員の俞正声全国政治協商会議主席は 29 日、暴力事件が相次いでいる新疆ウイグル自治区の区都ウルムチを訪問、「テロ勢力」の取り締まりを徹底し社会の安定維持を図るよう地元幹部に指示した。30 日付の地元各紙が報じた。

ウルムチでは 30 日も小銃を抱えた警察官らが各地で隊列を組み、周囲を警戒していた。

俞氏は「暴力、破壊、略奪、放火などの犯罪行為は法に基づいて厳罰に処する」と強調。習近平指導部は、一連の事件が当局に不満を持つウイグル族による大規模暴動に発展しかねないとの危機感を強め、抑え込みを一段と強める構えだ。

<http://www.topics.or.jp/worldNews/worldInternational/2013/06/2013063001001733.html>

● **コラム：中国減速の影響はアジア域内でもまだら模様** 2013 年 06 月 26 日 15:56 JST

By John Foley

【北京 25 日 ロイター BREAKINGVIEWS】アジア市場の下落は、中国の景気減速がこの地域に悪影響をもたらすとの見方を反映している。しかし事はそれほど単純ではない。

経済規模の大きいアジア諸国の輸出に占める中国向けの比率と、輸出の国内総生産（GDP）における重要性に目を向けよう。中国は過去 10 年間で急拡大を遂げたが、近隣諸国への影響は予想より小さい。

オーストラリアの例を考えよう。国際通貨基金（IMF）のデータから計算すると輸出の 3 分の 1 は中国向け。大半は鉄鉱石や石炭などの鉱物資源だ。しかし中国向け輸出の総額は 2012 年の GDP の 5% にすぎない。日本も同様に影響が遮断されており、中国向けは輸出の 5 分の 1 以上を占めるが、GDP に対する比率はわずか 3% だ。

これに比べてベトナムは中国の余波が及びやすい。世界の製造業サプライチェーンを構成する低コスト生産国としての役割拡大を反映し、輸出の 17% が中国向けだ。これは GDP の 1.3% に相当する。サムスン電子や現代のおひざ元である韓国は、中国向け輸出が GDP の 15% に相当し、10 年前の水準から倍増している。シンガポールの中国向け輸出は GDP の 3.2% 相当まで増加した。

貿易統計だけでは経済的依存度を完全に把握できない。例えば、2012 年に韓国を訪れた旅行者の約 4 分の 1 は中国からだった。オーストラリアにおいては、他の顧客に売るコモディティの価格を押し上げるといった別の経路で、中国の需要が成長を促進している。

しかしアジアの貿易相手国の望み通りに中国が輸入を開放していたなら、中国の景気減速はより憂慮すべき問題となっていただろう。中国の経済規模がほぼ 4 倍に拡大した過去 10 年間で、近隣諸国のうち経済規模で上位 9 カ国からの中国への輸出は、輸出総額の 17% から 23% にしか増えていない。フィリピンとインドネシアでは、GDP に占める中国向け輸出の比率を見る限り、中国の奇跡的な成長はほとんど影響を及ぼしていない。

好況時には、中国が市場開放を遅らせていることが不満の種となったが、景気が減速するとむしろ幾分かの安心感をもたらす可能性がある。

*筆者は「Reuters Breakingviews」のコラムニストです。本コラムは筆者の個人的見解に基づいて書かれています。

http://jp.reuters.com/article/jp_column/idJPTYE95P04W20130626

● 村山、野中、仙谷氏らが政治を憂う会 96 条先行改正を批判

2013/6/30 19:24

村山富市元首相（社民党）、野中広務元自民党幹事長、矢野絢也元公明党委員長、仙谷由人元官房長官（民主党）ら超党派の現・元国会議員 10 人が 30 日、都内のホテルで政治の現状を憂う「円卓会議」を開いた。憲法改正の発議要件を定めた 96 条の先行改正を批判、本質的な憲法論議を深めるべきだとの考えで大筋一致した。衆院小選挙区比例代表並立制の見直し論も相次いだ。

みどりの風の亀井静香元金融相が呼びかけた。村上正邦元自民党参院議員会長も参加。日本維新の会の石原慎太郎共同代表も飛び入りし、尖閣問題などで意見の異なる野中氏は「石原氏の顔を見ると血相が変わった」（出席者）という。会合後、亀井氏は「ここで殴り合いが始まればいい。現役もそれぐらい危機感を持ってほしい」と指摘した。

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS3003P_Q3A630C1PE8000/

【愛川サライ動向】

I ロシア連邦サハ共和国国立劇場付属青年太鼓ユニット「テティム」18 人受け入れ準備進む

第 4 回愛川町音楽祭一笛と太鼓の祭典に向けた準備が進んでいます。7 月 9 日には、会場となる愛川町農村構造改善センターで、実行委員会（足立原泰実行委員長）が開催され、12 人が参加しました。会議では、7 月 26 日、成田空港からバスで繊維産業会館に到着後歓迎会を催し、27 日から 8 月 2 日まで、毎朝神奈川県立愛川高校に通い、研修後はお風呂で汗を流した後、繊維産業会館に戻るといった日々を過ごします。この日は、27 日、28 日の送迎協力者の名前がピックアップされ、会議後、29 日からお風呂を提供していただく、料亭川庄の足立原強社長と相談した結果、29 日から 8 月 2 日まで、朝 8 時、夕方 4 時の送迎には川庄の 28 人乗りバスを運行していただくことになりました。また料亭こまやの小泉 稔雄社長が特別にサ

ハ共和国国立劇場付属青年太鼓ユニット「テティム」のために 5 時までの時間帯でお風呂を提供していただけることになりました。

チケットの頒布にも 160 数枚が協力者の手で配布されるほか、プログラム広告についても実行委員が声をかけることになりました。

今後、仕出し弁当屋さんとの交渉、繊維産業会館で使用する布団干し、シーツの選択、ベッドの持ち込み、8 月 3 日の愛川町音楽祭に来られる聴衆を運行するシャトルバスの発着場所の確保、半原神社の祭礼での交流調整、過去 3 回の音楽祭参加者へのお誘い電話、当日のプログラム・進行表の作成、8 月 2 日の仕込みで、会場整備（ブルーシートを敷き、400~500 のパイプ椅子のセッティング、太鼓の持ち込み）等、実務的作業が続きます。

「日本に“原発を建てても安全な場所”はない」小出裕章氏が警告 <http://nikkan-spa.jp/450015>



小出裕章・京都大学原子炉実験所助教

「世界一の地震国・日本には『原発を建てても安全な場所』はありません。そのことをよく考えなければ、また悲劇を繰り返すことになる」と警告するのは、京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏。

「原子力産業を牽引してきた米国も欧州も、大地震の危険性がある場所を慎重に避けながら原発を建設してきました。欧州のかかりの部分は非常に地盤が強いですし、米国ではその多くが地震の少ない東海岸に建てられています。日本列島のような大地震の頻発地帯に原発を建てるというのは異常なことです。福島第一原発の事故が起きる前、私が最も心配していたのは浜岡原発（静岡県）についてでした。世界中の地震学者が『明日起きても不思議ではない』と口をそろえる東海大地震の予想震源域の“ど真ん中”に原発が建っている。そのため、私はずっと浜岡原発の事故の危険性を警告してきました。しかし実際に事故を起こしたのは、福島第一原発でした。つまり日本列島においては、次にどこで巨大地震が起きるのか、正確に予測することは不可能なのです。東日本大地震で事故を起こしたのが福島第一原発だけだったのも偶然でした。例えば女川原発（宮城県）は、外部からの送電線が辛うじて一系統だけ倒壊を免れたため、運良く事故にならなかったのです」（小出氏）

危険度では、四国電力の伊方原発（愛媛県）も要注目だ。「伊方原発をとめる会」(<http://www.ikata-tomeru.jp/>)の和田幸氏は「九州から関東まで伸びる国内最大の断層系、中央構造線と伊方原発は 5km しか離れておらず、直下も同然。ここで大地震が起きれば、地震波を機器が感知して原

子炉を停止させる前に、揺れが原発を直撃するでしょう」と語る。

「しかも、中央構造線が四国南方の『南海トラフ』と連動する恐れもあります。その場合、耐震基準の数倍以上の揺れが伊方原発を襲う可能性は極めて高いのです。瀬戸内海は外洋との海水の循環が少ない内海なので、太平洋に面した福島県沿岸に比べて放射性物質が溜まりやすい。事故が起これば、汚染被害は極めて深刻なものとなるでしょう」（和田氏）

政府の中央防災会議は、南海トラフで起こりうる巨大地震に関して「今後 30 年間でマグニチュード 8 以上の地震発生率は 60～70%」と算出。「最悪の場合は東日本大震災をも上回る規模の超巨大災害となる」と予測している。それにもかわらず、政府は南海トラフ地震での原発事故を想定していないのだ。

今後の原発再稼働については、原子力規制委員会が 7 月に公表する新規制基準をクリアすることが条件となる。政府や電力会社はこの新基準公表後、再稼働の動きを本格化させていくものとみられている。「緑の党」

(<http://greens.gr.jp/>) の脱原発担当で、第一原発事故後の対応について政府との交渉を続けてきた杉原浩司氏は「大飯原発の『特別扱い』は危険」と語る。

「新基準も決して充分とはいえませんが、現在稼働中の大飯原発 3・4 号機に関しては新基準をすぐには適用せず、次回の定期検査まで運転を継続させるというのです。つまり、その 2 基については以前の緩い基準のままの運転を認めるといふ。この特別扱いは、大飯原発が止まれば日本の稼働原発がなくなってしまい、市民が『原発ゼロ』に慣れてしまうのを避けたいからでしょう。しかし、大飯原発の敷地内にある破砕帯については『活断層である疑いが濃い』と、原子力規制委員会のもとでの有識者会合でも指摘されているのです。天災は大飯だけを『特別扱い』してくれるわけではありません。例外はなくすべきです」（杉原氏）

[6/4 発売の週刊 SPA！ワイド特集「大マスコミが報じない激ヤバネタ 16 連発」](#)では、小出氏が今でも危険な福島原発の状況に警鐘を鳴らしている他、アベノミクスで復活した無駄な事業などのニュースから、関東連合の最新情報などを連発している。 <取材・文・撮影/志葉玲>

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：江藤セデカ
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1
TEL：046-285-4895 FAX：046-265-0167 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振込の場合：ゆうちょ銀行〇一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ 会費、ご寄付はこちらへ。会費は正会員年間 1 口 3,000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円。一口以上のご協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.org/>

2013 0701 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：地域拠点型活動の一つ愛川町を視野に合宿が行なわれた。本当に辺鄙な山間の温泉キャンプ場でしたが大人 22 人に子ども 4 人（赤ちゃん 2 人）がきれいな空気と温泉でリフレッシュしました。愛川町からはまちづくりネットワーク愛川の代表諏訪部勲さんが 2 日間、ユーラシアンクラブの関係者とコミュニケーションをとっていただき、本部役員らに愛川町での活動の理解が広がりました。8 月 3 日の音楽祭に向けて、実行委員会も開催され、これまで以上に地域に根差した取り組みが進展しています。これから一山二山越える段階です。この夏、シカチアリヤンに訪問できれば、懸案を解決して、2015 年の「300 人の村の古代絵画展」準備を進ませたい（お）